552

特252
365

島眞治著

日本聖戰の宗學的考察

‖並に天地歸一‖

信賴舍

始

侍252
365

はしがき

去ぬる歳末に際し、數十年繼續し來りたる日米通商航海條約は、愈々昭和十五年一月廿六日を以て、廢止さるると聞き、あなうたて、いざや、米國側の日本に對する理解を廣めて、二國相互の交親をも更に深むべき一助にもと思ひて、不取敢「日本聖戰の宗學的考察」を物して、新年の初刷に附せんとせしも、一月初旬校了したる儘、事情あり て發表の矢竹心も妨げられ、あたら時日を空費してしまつた。前論文の不備を補はんとして、他人の論文二三を讀み抔して、偶々草したる「天地歸一」を之に追加する事にした。極めて小なる冊子なれども、基督にありての敬神忠君萬民尊重を明に云ひ現はし、時局に對する思想報國の實を擧げんとの微意の外には何もない。願くは江湖の諸君子、之を諒とせられよ。

昭和十五年三月十一日

尾島眞治

謹識

日本聖戰の宗學的考察

米國より歸り來りし親友の曰く、アメリカ人は、日本が新東亞の建設、勤儉貯蓄、犧牲献身等々を提唱すれども、聖戰の御題目のみあつて理由を說明せざるを攻擊しつつある人々は頗る多かりしと。或人は云ふ此の事變たるや唯物的に、持たぬものが持てるものとならん爲なりと、或人は、ノモンハンに於て、其の長子の戰死に遇ひ、更に其の二子は從軍しつゝあり、彼は之を天主敎徒として感謝しつゝ、喜び涙にむせびつゝありと自ら云ひ、しかも、マカビース書の一節を引いて、愛國の戰鬪を是認し、羅馬法王は、支那に六百萬の信徒を有すれど、日本には僅に廿五萬なれど、日本を義戰と云ひつゝあり、天主敎と戰鬪とは一致せざる觀あれど、實際は決して然らずと云ひたり。

我等新教徒殊に日本神學の徒としては、聖書の中に語り給ふ精靈に從はゞ、即ち新契約聖書の中の希伯來書には、

彼等は信仰によりて、國々を征服し、義を行ひ、約束を得、獅子の口を閉ざし、火の力を熄し、劍の口を遁れ、弱よりして力づけられ、戰に於て强くなり、他國人の營を退かしめたり。（ヘブル書十一の三十三、三十四、同じ三十節からも、義しき戰鬪讃美の語である）。

とある如く、舊契約聖書に於ける正義の戰鬪等は、新契約聖書の記者として是認されてあり、固より凡ての戰鬪を是認はしないでも全く非戰論者では書く筈はないのだ。固より新教徒の多くは戰鬪を是認せず、戰鬪を否認するは、無教會の徒である。

「日本精神と基督教」の日本基督教會の牧師は、戰鬪は罪惡と云つてゐる。先頃米國の教職の多數は、享樂的信徒に迎向してか、多數は戰鬪を非認し、罪惡なりと云ひしとか、日本に於ても、或教職は福音的とか、精靈派とかで、各派間に希望ある人は、余が希伯來書を引用して、戰鬪を是認せしに反對した。しからば聖書に基かぬユニテリアンか、聖書の小部分がインスピレーションかと問はゞ、顏を赤くして怒を含みて、否々、余は高等批評派に非ず、聖書の凡は神籟の書なりとや云はん、かゝる矛盾は、今の歷史的基督教徒の常なり。古代の歐米人は、同じ一神教たる回教徒に對して、十字軍を起し、長期の戰鬪をしたのは、聖書的か、非聖書的か。多分當時のクリスチャンは、之は聖書的で、決して間違つたことはしなかつたと云つたであらう。我日本の聖戰は後に評論する如く、印度の汎神教且迷信道たる佛教淮無神論及び功利教たる儒教に關はる。昔も國史略の著書巖垣松苗氏も德川の學問所學者たりし林羅山も日本の爲に儒佛兩教は害ありと云つたが、彼等としては、しかく深甚にして根底的な理由が辨證されたかに疑ひなきにしもあらずと雖ども、我日支事變の根本的理由は支那精神と我等が日本精神とは俱に天を戴かれず、彼等にして、其の國是を改めざるに於ては、日本精神の根本をなす敬一神、忠一君、萬民尊重主義は甚だしき誘惑と感化とを恐るるものである。此の點、諸君の祖先たる中世紀歐羅巴人が起したる十字軍に似たるものありて存す。

それであるのに、今事新らしく日支事變を目して單に侵畧なりと云ふは、彼等の過去歴史と比して矛盾せざるや、此の點余は過去の印度征服をも必ずしも罪惡とはしないのだ。人々は、聖書に基いてゐる、間違つた事はしてゐないと云ふ。それならば、一々、彼等が彼等の間違を指摘したる事に對して、聖書的答辯を與ふことはせで、只感傷的に云々する計りである。之が薩馬辭書に「宗教は信神に迷ひ堅からしむるもの」と云ひ、無證の信仰とは彼等のもつものであり、無辨證の說教とは彼等の專門である。共產主義者に「宗教はアヘンなり」と云はしむる理由である、哲學者考察を與へざる宗學家よ、無理解の信徒よ、汝等は、晝夜世間を經廻りて、己れの宗派に引入れんと努力して、眞實、基督を尊崇せず、聖書を尊重せざる虛僞をかゝる折に觸れて暴露する僞善の徒たるか、職業宗學者として甘ずるなるか。深察せよ、猛省せよ。

俗世間に於ける新主張は、往々死に價する。日支事變に於ける日本は、歐米諸國から曲解しては日本は迫害に價してゐる。日本は强者として弱者を侵略してゐる。だから支那を極力助けろ、しかも蔣介石其の他は、クリスチャンではないかと云つてゐる。米國など支那の宣傳しかも虛僞の宣傳に乘ぜられてはゐまいか。日本の宣傳下手は支那人の如く歐米の殖民化せざる日本は獨立の國民性からしても、さうある事は寧ろ日本の誇りとしてゐる。それに日本は歐米のクリスチャン心理を理解しないで、自個の御題目式のトピック計りを人と文とで輸出してゐる計りだ。若しも日本に皇室中心の忠良の臣民と兵士の多數と、食料品の自足とがなかつたら、至極哀れな終りを告げたであらう。

新主張のみか、新運動のみか、新神學は、主イエスの場合に於て、其の說教は往々迫害を與へられた。彼がナザレに於て、汝等の耳に聞いた聖書は今日成就したと仰せられたら、彼等は大に怒つて、彼を殺さうとした。カルバリに於ての磔刑は、彼が新神學の價だ。

先頃も世界一と評さるる新契約聖書の譯者永井直治翁の神田錦町に於ける新契約聖書の研究會に來てゐる一女性は、其の屬する教會の牧師から、ひどく叱責されたと聞くから、それを慰めんとて。

大みふみ現人神を片よせて

おのれ守れり命（みこと）守らで

某が地方に於て、講演したりするのを喜ばない向もある。それは悉皆ではないが、決して少くはない。何故か。（一）、自分もグリーク原典聖書を勉強せねばならなくなるが、それは不可能だとして怠る。某の著書は、東洋宗教學の素養がなしに分らないとして、勉強しないのだ。（二）それなら聖書は某に、神學は某に白旗を出して、日本語で聖書を聞いたり、其の指導で東洋宗教史を學んだりして、眞理の軍門に降れば宜しいのに、それは出來ない。しかもそれは、彼等に降るに非ずして基督に降るのだのに。それ程大膽でもなく、率直でもない、さうして、彼等は屢々價のない修養會を開いて、第三の天に昇つた心になつてゐる。（三）彼等は最も低い一般としつくり行かなくなるのを恐れる。聖書の權威者と云つても日本神學の權威者と云つても、其等の立場や說き方やが拙くして、しつくり行かない處のあるのは當然であるが、それよりも彼等の先入見卽ち教育又は遺傳の力が强くて、それに餘りに無知識で、負惜が强く

て、基督に從ふ基督者たるよりも基督に從はぬパリサイ人は、恰かも原始基督道者をして、卽ち眞のクリスチャン達を、十字架に價させてゐるのだ。

「個人は神なり、國家は人なり、萬國は獸なり」の語があるが、其國際間はともすれば獸となるのだ、從つて現今の時代もなほ、國民なる者の多數は、愚者にして、賢明なるものは、ノア八人の少數なり、汽車旅行に見ても、武運長久の立札多きや千人針をする女人等やは愚者を代表し、祝皇軍出征は賢智を代表してゐるのだ。神社への非合理の宗教的禮拜は、愚者を代表し、稗田阿禮、德川光圀や、日本神學の一人等々を通じて、日本の一神一君萬民尊重を懷古し、又將來せんと勉むる徒は、賢哲である。

稗田阿禮の語り傳へし天御中主神にて、此の三柱の神は並せて獨神なりましてみ身を隱りましきの語に偲ぶ者、德川光圀の如くに「神あり、首（はじめ）に高天原に出づ」（大日本史神祇部の開卷の語）に、創造三神を偲ぶもの、「初に言あり、言は神と偕にありき、言は神なりき、萬の物之によりて創れり、創りたる者に一つとして之によらではじまりしはなし、之に生命あり、此の生命は人の光なり、光は暗に照り、暗は之

を悟らざりき」（ヨハネ傳一の一―五）と云ふ精句に於て、「神あり首に以色列（イスラエル）に出づ」と云ひ、クリスマスをなし、現人神を偲び、神の限りある顯現を神の獨子、イエス、キリストに祝ふ者は賢哲である。國常立尊以上に天御中主神に眞つ先に神を認めざる日本紀、古語拾遺、舊事本紀、大成經舊事本紀、神皇正統記は、忠ならんとして、不忠に、愛國者ならんとして、愛國者たらざる異端者である。

此の如く賢哲は少數にして、迷妄は多數であるから、改革も革命も決して一朝一夕の仕事ではない。大衆の全部の理解を受くるは容易でないから、努力を繰返す外はないのだ。聖戰につきても、其の例は免れないのだ。聖と云ふ字からして、玆に之を用ゐるは、適當か、不適當かも考ふべきだ、支那語の聖は大なり智なり德なりであつて、ビューア（きよき）とか、ビユリチー（きよきこと）とかは云はない、聖の字を聖書と云ふ時、聖靈と云ふとき、聖餐と云ふとき用ゐるのは誤だ、聖德太子とは、きよき太子でなく、智德兼備の太子と云ふのである。德の中にはきよきを含むけれども德の凡ては精きに義きに限られてないから、德はきよきと云はず、「めぐみ」とか「のり」

とか申すのだ、聖の字も同じく、其の中に精（きよき）とか淨とか潔とかを含んでゐても、聖を「きよし」とは、漢語字典の一切には云はない。してみると、聖戰とは、意味を限りて云はゞ、義戰と改むべきものか。きよき戰と讀むのは間違ひである。文字の研究は偖おきて、此の義戰の意味や果して如何。

（一）此の日支事變は、支那が、多年抗日運動をなし、教科書にも、日常用ゐる扇子にさへ、抗日の文句を入れつゝあり、最近は、屢々、日本人の商業を妨げ、日本人を殺害し、遂には通州事件に於ける日本人多數の虐殺を發生したので、屢々外交手段を盡しても、彼等は相手にならなかつたので、已むを得ず、日本は立上つて戰鬪を始めたのだ。殊に英米の如く支那と境を接せずば對岸の火災であるが、我等日本人はさうは行かない、禍を受くること最も多し、英米と日本と位地を易へたらんには、英米も日本以上の英支事變を生じ、米支事變を發するであらう。

（二）支那人は數千年間祖先崇拜、家族本位の國で堯舜さへそれだ、孔孟さへそれだ、つまり幸福主義、少し位、自由は失つても、援助を受くることを喜ぶのだ、支那に於

ける天主教及新教の傳道の好景なるは、彼等は殖民地化を歡迎するからだ。實利主義の民族だ、事大主義の國民だ、李中堂、蔣介石、汪兆銘の三民主義すらそれだ、君臣三年、親子萬代の諺の實行された國だ、個人あつて國家はない。君民四年、個人萬代とアメリカは見えても、實は、國民の多數は、基督中心の一神教徒であるから、大統領は、年期は短くても、一種の皇(すめら)であるから基督道の根本義たる一神一君萬民尊重を主義とするとも云へる、英國、和蘭、スカンジナビヤ三國の如き、基督道新教の行はる國として、一神一君萬民尊重の國だ。それに日本最高知識階級少數のプロテスタント文化を主義として、遂に日本を統制主義や共產主義やから救ひつゝある者を合せて。プロテスタント七ヶ國同盟をなさるべきだ。此の七ヶ國は、日本と同じく、君は民の機關と云つても、民は君を民の機關と云はず。君は民主と云つても、民は君主と云ふ(ゴッド、セーヴ、キング、デョーデと云ふ)、デモクラシーをかゝる見地から用ゐることをしてゐる。日本の官僚も帝國憲法を或曲學阿世の、深く日本語も知らず、歌道も識らず、神道權威と自信してゐても眞の神道も知らない人から、皇國憲法論などによりて敎へられ、高等文官の受驗者としての歷史を續けてゐては、明治聖帝にも忠ならず、帝國憲法にも「忠なるものに非ず」と反省せられよ。抑も國體明徵とは何ぞ、日本精神とは何ぞ、國民精神總動員とは何ぞ、只題目なるか念佛なるか、國體の本義の正解は、かゝる說明に基かねばならない。敎科書改訂も、かゝる明智より始めずば、將來の國民を誤りに導くもの、盲者の手引となり終ることとなるのだ。

日本は太古以來、一神一君萬民尊重の國として、天つ神一神をあがめ、皇一つを貴び、八百萬の神つどひを持つ民族若しくは其の統一に化せられたる十數民族の一民族化である。日本にして一神一君萬民の尊重を主義とせざるは、前にも云ひし如く支那の如く、無神若くは多神となり、一君なしには、各軍閥が王となり、勢力爭ひ常に絕ゆる事なし、萬民各所を得べく、萬民同治の帝國憲法なしには、一權者か數權者かの專政政治となりて、民衆は、其の奴隸となるなり。若し我日本にして、神祇を宗敎的禮拜の目標とし、祭神の序に於て、高低其の宜きを得ざれば、即ち惡多神となるなり、一君は皇統連綿にましませど、文臣若しくも、武臣が威權を姿にせんか、明治聖帝の最

も恐れ給ひし鎌倉覇府を開きし源頼朝以後の封建制度に墮し、君も民も苦に陷らねばならない、過去千年の日本歴史が支那の感化によりて儒佛廣布するや國體を甚だ危くしたり。現在の日本も、武臣が、明治聖帝の軍人勅諭に於て、戒め給ひし「政治を語らず、世論に關らず」を守らざりせば、似而非なる月並極る敬神忠君。實は敬多神、忠多君の實あらんか、敬一神も忠一君も、臣民としての赤誠上滿たざる處あるに至らんとす。皇統連綿と共に國體常恒を稍危くする虞れあるに至らんとす。其の他行政官たる官僚が、其の理解に缺くる所あり、賄賂を喜び、文士に頻々不合理の發賣禁止を行ひ、軍部に阿諛し、自家の生活の安易をのみ謀らんか、國家民人の亂階となるなり。萬民を貴ぶ上に於ても、民衆を代表する貴衆兩院議員も、其の理解に於て、其の德操に於て、大に缺くる所あらんか、國體明徴論は、屢々教科書の不公正の改訂を行はしめ、財閥の走狗となり、卑俗に就ける民衆に媚び、代議士としての使命に於て全くゼロたらんか、上下の信頼を缺きて、單に年手當の貪手たるに終らん、價せざる民の代表こそ國家を滅亡に導く者なれ。萬民其の者に於ても、無識にして、日本精神の元始を忘れ、徒に支那及西洋の風俗習慣を無考慮に取り入れ、自國固有の美なる國體を弱くするものにてあらんか、又は職業政治家に隨喜し、淫祠邪教を悅び、廢汎神、棄功利、廢雜學棄迷妄の正心を缺くあらんか、屍のある所必ずや鷲集らんとは誠なる哉と歌はしめん。總して多神（神社の多神教的禮拜に於て）一君（忠君の名のみありて其の實を缺きて）多官權（文臣武臣共に權を專にして）の國とならん、又超然自重は、義の闘將の誘惑だ。豈戒めざるべけんや。內は、多數國民の不信任を招き價せざる代議士にも信頼をおかれず、外は國際抗日を將來すると否やとは此の如何による。

（三）　八紘一宇（神武天皇東征の警語）とは、滿天與地悉く一家となれ、正義により て平和を樂めと云ふこととせば、そこに乾坤一家の中心は誰ぞ、多神は多君（印度の六百王亡國に省みよ）を來らすから、一神でなければならぬ。多君は戰國時代を來し、二王は、南北朝を來らすから、一君でなければならぬ、世界一家としての神は、一天父即ち天御中主神の如く、エホバ即ち基督の如く、不二の現人神の如くあらねばならぬ、四海兄弟は即ち萬民平等農工商の階級を廢し、バラモン、王、商工・シュダラの

四階級を禁じ、憲法政治を守り、女人にも參政權を得しめる所まで進まねばならぬを主義とすべきだ、日本民族殊に天降人種は世界無類の受難民族（海洋の難航、未開の蠻族と無數の戰鬪を經たる）には、歐羅巴民族、支那民族等々、（安易爲し國）は比ぶることも出來ないである、敬神に非ざれば征服超越の優者となりえず、富國强兵は一神教一君國の附きものである。自然、忠君にあらざれば建國ならず、萬民尊重主義にあらざれば、勤儉貯蓄も、犧牲、献身も、義憤勇戰も成らざるのである。女人尊重の古俗を將來せずば、理想的な國民總動員は實現されないものである。只神社參拜、高貴遙拜と云ふ儀禮によりて實現の能事足れりとするは、大なる誤りである。南無法蓮華經の題目、南無阿彌陀佛の念佛と均しく、題目しつゝ念佛しつゝ罪惡を行ひつゝあるのと均しいこととなるのだ。我等は玆に大なる義憤を有するものである。一國既に一神一君萬民尊重を主義とすること全ければ、萬國遂に之に習ふに至り、世界は八紘一宇の平和境を出現するに至るのだ。八紘一宇の本柱は、かゝる世界の顯現するに及んで、其の紀念碑となるのだ。宮崎市に建立さるる八紘一宇の本柱は、過去の二千六百年の紀念碑に叶ふこととよりも、更に將來何百年何千年かの將來に及んで、其の調べに叶ふこととなるであらう。

事變處理につきても蔣介石政府、汪兆銘政府等の將來は玆に之を云はず、日本外交の最近の失敗は、經濟の外援を得そこなつた爲に、寶の山に入り乍ら手を空うして歸るの姿をなしつゝある事は評者の偏見と見るとしても、現在は現在の事變處理をやつて行かねばならない。終になほ支那の將來に就て考察せんか、或二三の維新政府の建設はあつても、一神一君。萬民尊重のそれに及ばねば、百年黃河の清を待つの類だ。少くとも武力と經濟とに於て、獨立することのみを滿洲國と異にする支那即ち。一君の支那を先づ建設し、萬民尊重主義を勵行し、漸く、汎神教、現世主義、祖先崇拜、家族本位等々を廢し、孔孟の書、西洋の政治書、科學書よりも、日本の古事記神代卷の精神に習ひ、更に新契約聖書の大義に則つて、基督中心の一神教徒となり了する事是が新東亞支那の建設の根本義である。

新契約聖書の根本義に從ふとは何ぞ。それは明白にして不偏、自由にして秩序あ

り。即ち次の如し。

イエス答へ給へり、凡ての誡の第一は、イスラエルよ、聞け、主、我等の神は一なり、されば汝の心の全きをもて、また汝の魂の全きをもて、また汝の理性の全きをもて、また汝の力の全きをも、主、汝の神を愛すべしと、是れ第一の誡なり、また第二もそれに等し、汝の鄰人を汝自身の如くに愛すべし。此等より大なる他の誡はあることなし（マルコ十二の廿九、卅）。

之は敬神は第一なれど、敬神のみならず、忠君のみならず、社會人としての鄰人、即ち個人の總和たる人類凡てをも愛することなり。又彼得前書二の十七に、

凡ての者（即ち萬民）兄弟を愛せよ（即ち同信の徒）、神を畏れよ（即ち敬神）、王を敬へ（即ち忠君）、

とあり、神と人と對する道德を完全に敎へてある。余は日本の歌もて、聊か此等の意義を云ひ現はした。

敬　神

あまつ神のみ言畏み兩親をもかなし妹をもおきて行くかな

忠　君

獨神につき〳〵しきはみしめなは只一すちのすめらなり皇

萬民尊重

おきてこしかなし妹をも兩親をもめつるは君と臣となり皇

支那に對する日本其の他の宣撫師、英米の宣敎師は、此の理解なしに、日本の外交官と日本の軍部と共鳴することなしに、支那に於ける大天國の完全なる建設は、痴人の夢に終るのだ。

日英米の外交家は之に着眼するを要し、殊に英米國民は、一神一君萬民尊重に抗しつゝある支那は、日本を禍するのみならず、遂には英米其の他の全世界を誤る事は、恰もソ聯の共産主義とすこしも異ならざるものありと悟ることが、現下の日支問題解決の鍵でありと知れ。

天地歸一

＝全世界事變處理の目標として＝

私は近頃、或食堂で、知らない人と同じ食卓に就いた。年の頃三十位、中學校の先生かと思はるる人が、食前の御祈りをしてゐるのを見た。私も無論御祈りをした。此の御祈りが、所謂東亞新秩序建設、新亞細亞の建設にも必要だ。

天上天下唯我獨尊、一天皆歸妙法、一天父四海兄弟、と云はるる。何れも壯大なる語だ。

寄國祝。

四方の海皆はらからとならん時
おやと仰かん國は此の國

これは、長崎縣の神官が、宮中御會始の御題に入選した歌だ。「日本の世界的使命」「日支事變の思想的意義」と云はるる懸賞論文を讀んだ。處が御祈りがない、「民族協同體」と唱へても、それはファッショのやうなもので、世界を眼中におかない。創世記のアダム、イブの記事を曲解して、神人の對立など、詛つて、人間の得自由の意義に就きて無識であつて、その代りに鎮守の森の中にある宗教史上低級のアニミズムを御祈りの對照としてゐる。又或者は、神は人の感覺なり、神は信仰なりなど云ひて、既に日本に於て禁止されたり又は禁止されんとする或宗教の神觀を並べて得意がつてゐる。孫逸仙の三民主義（民族の獨立、民權の擴大、民生の安定）の如きは、支那には適當であらうが、アメリカや英國や日本やには不必要だ、蓋し既にそれらを全うしてゐるからだ。某氏聲明の領土を望まず、償金を取らずは最道義的にて宜しけれど、善鄰友好も希望としては可なれど、今は惡鄰懲罰の時とて日支事變の進行中であるから、時の調に叶ふかどうか疑はるる。防共同盟、是將來にも必要な問題だが、他の事を缺いては矛盾ではないか。經濟提携、是は餘りに普通過ぐる。總じて御祈りがない。政治家は、「神を語らず、宗教に關らず」と云ふ戒律でもあるのか、神なし又は宗教なしの新秩序を建設する積りか、日本は防共同盟と云ふが、共產主義の根本義は無神論だ

、また無帝論だ。唯物說だ、防共と云へば有神論であるべきだ、有神論ならば皇帝もあるべきだ又御祈りがある筈だ、容共同盟の蔣介石が、基督者たることは矛盾であるやうに、防共同盟の人々が無帝王であつたり、無神論的立場にあるのは矛盾である。して見れば、天下協同であるのみならず、天上天下協同であらねばならず、東亞新秩序であるのみならず、全世界新秩序を必要とする、況んや既に世界大戰となりつゝある時ではないか。北畠親房の「大日本は神國なり」も再檢討を要する。日本は神の守りを持ち、神の生命のまゝの行はれつゝあり、神の清め祓ひの行はれつゝあり、或日本人は、歐米以上の宗教を有し、神學を保ちつゝあり、誠に〳〵「大日本は神國なり」である。併し大部分の日本人の信仰は如何、秋津島人の道義は如何。南獨逸の天主教徒が、マリヤを安置せし廟に禮拜し、紅穀を塗つた十字架に向つて跪きつゝあるのに比べ、南米の諸民族が之れ以上の迷信を行つてゐるに比べて決して勝つては居ない。須く基督は拜すべし十字架は拜すべからず、神は拜すべし、神の宮は拜すべからず。

相對は絕對に非ず、相對を絕對扱するは非禮なり、冒瀆なり、墓參社參は偲ばんとてなり。

人は云ふ禮拜は不可なり、敬禮は可なりと。顏と顏と相對しての敬禮は必要だ、近頃人は脫帽せずして、先輩の脫帽敬禮に對することあり、是れは非禮だ。併し禮に過ぐるは同じく不可だ。人は壁を隔てゝ敬禮するとも壁のあなたの人は知らない、其の知らざるを承知して、壁の此の方にて敬禮せば如何。それは不可解だ、又異教の行爲だ。人が人の死後の靈に對し、白骨に對し、銅像に對し、墓石に對し敬禮するも、之と同じき不可解だ、異教の行爲だ。のみならず、死後の人を絕對を意味する神とはせずとも、相對を意味する神々とするのだ、多神教の中の一の神とするのだ。かくて、その敬禮は、宗教の意義を有し、道義的儀禮の界を離れて、宗教の界に介入してゐる、況んや敬禮のみならず、報告、感謝を行はんか、明かに宗教的行爲だ、近頃、クリスチャンが、世間の習慣に媚態を呈し、其の幾部分がかゝる敬禮をなしつゝあるは斷じて不可だ。十誡の第一には、

汝我前に我のほか神ありとすべからず

とあり、又第二には、

汝の爲に偶像、また上は天、下は地、或は地の下の水の中にある一切の者の像を造る勿れ。此等に平伏し又事ふる勿れ。そは、我エホバ汝の神は嫉の神にして、我を憎む者には父の罪を子三四代に至る迄罰し、我を慈しみ我律を守る者には、千代に至るまで恩惠を與ふればなり。

とあり、親しき友に向つて、ヤー先生と云ふは非禮だ、それと共に貴人に向つて神扱にするは貴人に對する冒瀆だ。人は神々であつても神に非ず、人は人なり。のみならず、絶對神に對する大冒瀆だ裏切だ。

然らば反對者は云はん、神道の至聖所には偶像なし、故に絶對神に對するトレーター即ち裏切者にあらずと、しかも、「天地海の中にある形に平伏すべからず」あるに非ずや、尺餘の木札、紙札、又は大なる箱を對象として、之に拜跪すれば、此の誡に背くものにして、天國の非國民となるのだ。又日本帝國憲法第二十八條を正用せざることゝもなる。內務省の神社非宗教論は、最も賢明な行政だ。それを今時「神社非宗教論」

を墨守するは、泰山をわきはさんで北海を越ゆるよりも六ケしい、刑には觸れないが非國民だと云ふ人こそ憲法違反の非國民で、明治帝の聖明を覆ふ逆臣だ。畏くも明治帝は、憲法はやそ教徒も佛教徒も守らねばならないから、神道の神々の名を入れては宜しくないと極めて仁德を御現はしになつたと洩れ承る處である。憲法御發布式の時にも神道の儀式はちつとも御入れにならなかつた。此の第二十八條の信教の自由とは小數は多數に循ふことではない、小數なりとも、たとへ一人なりとも自個の信仰を正統として守らば、それは此の條により守らるるのだ、發賣禁止又は禁錮等は、眞理を守る一人に對して、治安を紊り、安寧秩序を妨ぐると唱へて行ふべきに非ず、若し誤つてかゝる行爲をなさば、其の人々は古代の暴君、汚吏の輩である、安寧秩序を害したりとて殺された山縣大貳吉田松陰は勤王の志士にあらざりしか。我等基督者は、對手に距離ありて到底通じがたき時に、死者生者に係らず之に爲す敬禮はたとへ敬禮の名は負ふとも、其の內面に宗教的意義明かならば、之を爲すは十誡の禁ずる背教者である。しかも、妄りに偶像

呼はりをなして、日本の神を誹謗して、刑に問はるる事なきやうにせねばならない。それには、使徒行傳十四の八――十八を以て、我等が、非合理の禮拜拒否、敬禮拒否の理由とすべし。即ち次の如し。

またルステラに足に力を失へる或者〔ありて〕坐せり、母の胎よりの跛にて曾て歩みたることなし。此の者パウロの語たるを聞きけるに、彼はこれを凝視めつゝ、かくてその癒さるべき信仰あるを見て、大聲にいへり、汝の足にて眞直に起て。乃ち彼は躍り上りて歩めり。されば諸群衆パウロがなししことを見しとき、聲を揚げ、ルカオニヤ語にて云ひけるは、神々恰も人の如くになりて我等の許に降り給ふ。乃ち彼等はバルナバをゼウス、またパウロは言の主なりしが故にヘルメスと稱へたり。かくて彼等の市の前にありたるゼウスの祭司は、諸群衆と共に、數匹の牡牛また數箇の花飾を門の前に携へ來りて、献げ物にせんと欲せり。叫び且つ云ひけるは、人々よ汝等は何故に此の如き事をなすや。我等も汝等と同じ情の人にて、福音＝此等の空しきことより〔離れ〕、天と地と海とその中のすべての物を造り給へる、生ける神に歸らんことを汝等に宣傳ふるなり。彼は過ぎにし世には、すべての國人、その道々に往くことを忍び給へり、されど天より雨と豐なる稔の期とを與へ給ひて、食物と喜とをもて我等の心に滿たし給ひつつ、善をなして己れ自ら證しすることなくして差しおき給ひしことなし。かくて彼等は此等の事を云ひて、漸く諸群衆を止め彼等に献げ物せんとするより〔免れたり〕。

惜い哉、幾部分かの日本人は、宗教史の知識を缺く、かくて、彼等の道には、

「絶對を語らず、眞理に係らず」

と云ふ誡命でもあつて、之に縛られてゐるやうだ。今後の日本人としては、常恒の現在、中なる今、とこしへ、アイヲノスを理解し、廣さもあり、高さもあり、長さもあらねばならない。昔のやうな島人根性、井底の痴蛙では甲斐がない、それでは、東亞新秩序建設の大事は覺束ない。そこで、「大日本は神國なり」は、「全世界は神國なり」に躍進せねばならない。東亞新秩序建設は、全世界の新秩序建設に擴大せねばならない。戰鬪は東亞だけで、外交には全世界と云ふ譯には行かない。今や天下世界歸一で

あるのみならず、世界歸一や防共同盟や日支事變の處理や日本人の世界的使命やには、天上を加へ、神への御祈りを數へねばならない。即ち天上に天下を加へたる天地歸一を理解し、それを我等の目標に置く可し。

それに、英米を始め歐米諸國は、政府に非ず信者の献金による傳道會社より、宣教師七千人を支那に派遣し、神國建設に努力しつゝあり、之は決して歐米政治家の手先とかスパイとかではない。彼等は聖書の明示せる如く（聖書の天國又は神國は、一二の例外の外は、天國は地上天國を約束してある、未來の大天國又は天上の大天國は之につゞくものである）神國建設の常恒運動である。日本の東亞新秩序建設も之に省みて、臨時でなく常恒性をもつべきものだ。又將來、巨億の資金を人民の献金によりて、支那に於ける神國建設を助け、「大支那は神國なり」とならん曉ならでは、常恒の平和が將來されないと覺悟せねばならない。

フインランドは、何故にソ聯に對して戰ふか、有神論者としてのルサルンの徒が、無神論者としてのソ聯と戰つてるのだ、英佛は何故に獨逸と戰ふか、英佛の自由主義

と獨逸のファシズムと戰ひつゝあるのみならず。クリスチャンを代表する英佛は、カソリックより放逐されたるヒットラーと戰ひつゝあるのだ。日本は支那と何故に戰ふか、意識するとせざるとによりて色々に解釋される。アメリカ人の多數は、日本は持たぬ國として、持てる國の支那に對して侵略をしてゐるのだ。日支事變の大原因は、民族自個保存の本能の働きにあるのだと。かく解釋してゐる。英佛も亦アメリカ人と同樣に思つてゐるのだ。我等日本人は如何、或者は、進化論的に、戰爭は弱肉强食の現れと思つてゐるかも知れないが、武運長久連はそれであらう（自然主義者は、神の攝理の信仰なしに、運命と申す、）寧ろ祝皇軍出征とあるは、敬神忠君の思想に支配されてゐる健全の人であらう。我等は「日本聖戰の宗學的考察」に論じたる如く、支那の功利主義の大原理たる家族主義、祖先崇拜、共產主義に對して、敬神（基督道によりて、固理修成さるべき純一神教、汎神教に非ず、多神教に非ず、即ち日本紀の「國常立尊」中心に非ず、古事記の「天つ神即ち三柱の神は、並せて獨神なりまして、御身を隱し給ひき」にも基く）。尊王（支那の君臣三年、親子萬代に非ず、日本の皇統連

綿、一君尊重)、愛國(玆に善鄰友好、民族獨立、民權擴大、民生安定、防共同盟、新亞細亞をも含む)を「全世界は神の國なり」の礎石の上に新世界を建設する一準備として之を爲すのだ、ペテロ前書二の十七には、次の如く記されてある。

凡ての者を敬へ(愛國家、愛世界)、兄弟を愛せよ(家族、教會)、神を畏れよ(畏しや神と均しく、神に親む事で恐怖を抱く事ではない、即ち敬神)王を敬へ(尊王)。

我等はソ聯に對しても、獨逸に對しても、之を要求し、英米其の他に對しても基督道の暗黑化即ちアリアン式汎神化を清め祓したる元始の純一神教に還元し、日本に於て、神の選民を再びしたる新創造神學のそれの如くなる事を勸告し。支那に對しても(蔣介石に對しても、汪精衛に對しても)彼等が根本的に轉迷開悟して、萬民尊重のみならず、彼等に數千年來の遺傳の力の妨害のあるありて、向上不可能かも知れない處の敬神、尊王の實を擧ぐる事を要求し、我日本に對しても、內容の完全解釋を加へずして、東亞新秩序の建設、聖戰目的等々の題目をのみの羅列をせずして、大國民としての理解の百パーセントを公私共に所有せんことを要求するものである。

昭和十五年三月二十五日印刷
昭和十五年三月三十日發行

定價二十錢
送料三錢

編纂者　尾島眞治　東京市澁谷區松濤町卅七番地
發行者　尾島眞治　東京市京橋區小田原町二丁目四番地
印刷者　西崎虎次郎　東京市京橋區小田原町二丁目四番地
印刷所　日章舍

東京市澁谷區松濤町卅七番地
發行所　信賴舍
振替東京八四四二六番

不許複製

398
195

終